

【初認定】ASPIC、「生成 AI 利用クラウドサービス認定」の第 1 号を認定！ 新規 2 サービスを加え累計 338 サービスへ ～安心・安全なクラウドの普及を推進。各種無料キャンペーン実施中～

一般社団法人 日本クラウド産業協会（通称：ASPIC、東京都品川区西五反田、会長：河合 輝欣）は、2026 年 7 月 30 日に開催された第 74 回認定審査委員会において、厳正なる審査の結果、新たに 2 件のクラウドサービスに「安全・信頼性に係る情報開示」が適切に行われていることを認定いたしました。

今回の認定では、2026 年 7 月 1 日より運用開始した「生成 AI 利用クラウドサービス（ASP・SaaS）の安全・信頼性に係る情報開示認定制度」（詳細別紙）における記念すべき【第 1 号認定】が誕生いたしました。生成 AI 技術を組み込んだ先進的クラウドサービスが、国のガイドラインや最新の国際標準に準拠し、適切な情報開示を行っていることが第三者機関によって証明された画期的な一歩となります。

これにより、ASPIC による情報開示認定サービスは累計 338 サービス（226 社）に達しました。

1. 新規認定サービス一覧・概要（認定日：2026 年 7 月 31 日）

新認定制度で初めて認定を取得した生成 AI 活用サービスを含む、以下の 2 サービスが新たに認定されました。（図－1）

①生成 AI 利用クラウドサービス(ASP・SaaS)の安全・信頼性に係る認定制度【初認定！】

サービス名： カナミッククラウドサービス

事業者名： 株式会社カナミックネットワーク

サービス概要：

他事業所間のプランのやり取りからケアカンファレンスまで、すべての業務を Web システム化し、生成 AI 技術を導入することで、地域包括ケアにおける多職種多法人連携や介護関連業務の劇的な効率化を支援する先進的クラウドサービスです。

②ASP・SaaS の安全・信頼性に係る情報開示認定制度

サービス名： AOULU 電子便

事業者名： アオウル株式会社

サービス概要：

請求書や納品書のデジタル送信および動画や写真、図面などの大容量データ送信を、2 段階認証やログ管理により安全に利用できる、帳票送付とファイル転送機能を統合した高セキュリティサービスです。



図－1

(※ 認定サービスの開示情報は、認定サイトにて公開しております。
<https://www.aspicjapan.org/nintei/>)

2. クラウドサービス事業者様へ：今こそ認定を取得すべき理由

現在、国内外で 1,000 を超える生成 AI クラウドサービスが提供される中、利用者は「どのサービスが安全なのか」の判断に強い不安を抱いています。独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の調査によれば、**SaaS 利用者の約 44%が「情報開示認定」を選定条件または選定時の参考**にしていると回答しています。

第三者機関である ASPIC の認定マークを取得することは、「**公的ガイドラインに準拠した安心・安全なサービス**」という**客観的な証明**となり、競合他社との強力な差別化および大手企業・自治体等からの引き合い増加（選定率向上）に直結します。

3. 認定サービス更新の報告（計 48 サービス）

第 73 回認定審査委員会以降に受け付けた更新申請（48 サービス）につきましては、引き続き安全・信頼性に係る情報開示が適切に行われていると認め、有効期間を更新いたしましたので報告いたします。

項番	認定番号	サービス名称	事業者名称
1	0197-1601	PasCAL for LGWAN	株式会社パスコ
2	0198-1601	SkyScraper	株式会社 N J S
3	0200-1601	ナレッジデリ	株式会社デジタル・ナレッジ

4	0201-1601	Water Business Cloud	メタウォーター株式会社
5	0087-1001	Nsxpres II @absonne 原本管理・共有 配信	日鉄ソリューションズ株式会社
6	0151-1202	S u i s u i R e m o n	セントワークス株式会社
7	0153-1202	遠眼警備隊 II	株式会社第一テクノ
8	0154-1202	FNX e-帳票 FAX サービス	株式会社ネクスウェイ
9	0113-1102	MarkONE シリーズ	株式会社ネットウエルシステム
10	0120-1102	e-staffing システム	株式会社イー・スタッフイング
11	0232-2003	CastingTable4.0	株式会社ミライト・ワン・システムズ
12	0233-2003	CIERTO (シエルト)	株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
13	0262-2203	s-flow	株式会社コデックス
14	0216-1803	クラウドサービス サスケ	株式会社インターパーク
15	0215-1803	GENESYS-ECO compliance	株式会社 J E M S
16	0092-1003	FastSeries	テクマトリックス株式会社
17	0093-1003	ADWORLD 自治体クラウド	株式会社日立システムズ
18	0054-0903	くらしの便利マップ	株式会社サンウェル
19	0063-0903	InterSafe CATS	アルプスシステムインテグレーション
20	0177-1403	SECURE DELIVER	富士フイルムイメージングシステムズ
21	0178-1403	行政経営支援サービス『FAST』	ジャパンシステム株式会社
22	DC0004-1403	三谷産業データセンター	三谷産業株式会社
23	0122-1103	C-Wing 講習会管理システム	株式会社 穴吹カレッジサービス
24	0125-1103	pufure (パフュール)	株式会社 NTT データ
25	0234-2004	電子契約サービス「WAN-Sign」	株式会社 NX ワンビシアークाइブズ
26	0235-2004	BIZCARD WEB	株式会社エイシス
27	0236-2004	Swing Water Cloud®	水 ing 株式会社
28	0237-2004	filedoor サービス	株式会社熊本流通情報センター
29	0238-2004	OCEVISTAS mini for 自治体	株式会社大崎コンピュータエンジニアリング
30	0239-2004	安否コール	株式会社アドテクニカ
31	0065-0905	CYDEEN 電子入札システム	株式会社日立システムズ
32	0068-0905	KnowledgeC@fe	株式会社富士通ラーニングメディア
33	0071-0905	KAM	株式会社アイテックジャパン
34	0001-0805	Salesforce Services	株式会社セールスフォース
35	0003-0805	Fujitsu AZCLOUD WebOffice	富士通株式会社
36	0008-0805	スパイラル バージョン 1	スパイラル株式会社
37	0202-1605	施設履歴管理システム	前田建設工業株式会社

38	0204-1605	SOFINET CLOUD	日本ソフト開発株式会社
39	0284-2406	PROACTIVE	S C S K 株式会社
40	0285-2406	アラートメールフィルタ	株式会社ビリーフワークス
41	0286-2406	年調ヘルパー	株式会社クリックス
42	0096-1006	eForwarder + NVOCC クラウド	株式会社エクサス
43	0009-0807	AZCLOUD SaaS WEBCON	富士通株式会社
44	0016-0807	@Tovas (あつととばず)	コクヨ株式会社
45	0017-0807	desknet's NEO	株式会社ネオジャパン
46	0219-1807	SMART れん太	株式会社エースシステム
47	0268-2207	tsClinical DDworks	富士通株式会社
48	0270-2207	SMS HaNa	日本テレネット株式会社

4. 一般社団法人 日本クラウド産業協会 (ASPIC) について

ASPIC は、1999 年に創立された、日本初のクラウド業界団体です。創立以来四半世紀にわたり、「ASP・SaaS・クラウドの普及促進と市場拡大」「安心・安全なクラウドサービスの推進」「ASPIC の組織強化と社会的なプレゼンスの向上」を目標に掲げ、日本の情報通信産業の発展に取り組んでまいりました。現在、会員数は 1,400 社を超え、AI 時代における新たなビジネスの創出と支援を推進しています。<https://www.aspicjapan.org/>

5. 本件連絡先 (申請受付窓口)

一般社団法人日本クラウド産業協会
 クラウドサービス情報開示認定機関 事務局
 〒141-0031
 東京都品川区西五反田 7-17-7 五反田第 1 note ビル 5F
 担当 : 岩田・池田・尾坂
 TEL : 03-6662-6854
 Fax : 03-6662-6347
 mail : aspic@cloud-nintei.org
 認定サイト : <https://www.aspicjapan.org/nintei/>

(別紙)「生成 AI 利用クラウドサービス (ASP・SaaS) 情報開示認定制度」概要

1. 制度創設の背景と目的

生成 AI 技術の飛躍的進展に伴い、既存のクラウドサービスに生成 AI 機能を組み込んだ「生成 AI 利用クラウドサービス (ASP・SaaS)」が爆発的に増加しています (国内外で 1,000 以上提供)。しかし、AI 特有のリスク (ハルシネーション、プロンプトインジェクション、権利侵害等) に対する不安から、利用者が安心してサービスを選択・導入することが難しくなっています。本制度は、国際規範や公的指針に基づき、**事業者が正しく情報を開示していることを客観的に認定**することで、利用者が安心して選べる環境を整え、日本の生成 AI クラウド産業の健全な拡大・発展に寄与することを目的としています。

2. 本制度の強みと独自指針の特色

ASPIC が 18 年の認定運用実績、生成 AI に関する政府系ガイドライン、国際行動規範、国際標準等を結集し、独自の「生成 AI 利用クラウドサービス (ASP・SaaS) の安全・信頼性に係る情報開示指針 (第 1.0 版)」を策定いたしました。

(※詳細は、<https://aspicjapan.org/nintei/ga-nintei/idp-publish/> にて公開中)

3. 新制度で重点的に評価・開示を求める主要項目

生成 AI 利用クラウドサービスでクラウド利用者に開示すべき情報は、次の通りです。

(1) ガバナンス・運営体制：

AI リスクアセスメントの実施および報告書の開示、AI 倫理方針・AI ポリシー・インパクトアセスメントの公表、権利侵害申し出・苦情対応窓口の設置および従業員に対する AI 特有のセキュリティ教育の実施等

(2) 透明性・データ管理：

利用基盤 AI モデル等の情報開示 (モデル選定基準含む)、利用者データの追加学習への使用有無および同意取得方法、学習済みモデルおよび入力データの権利関係・所有権の明示、及び人間の判断介入の有無と損害賠償等の責任分担の明確化等

(3) セキュリティ・安全性：

プロンプトインジェクション等の不正指示対策 (ガードレール実装)、ハルシネーション (出力の正確性・信頼性向上) 対策、AI システムに対する敵対的テスト (レッドチーミング等) の実施および RAG 利用時等のアクセス権限に応じたデータ参照制限 (ポイズニング対策) 等

4. 申請事業者様が得られる大きなメリット

下図 2 のとおり、本認定制度取得により数多くのメリットがあります。

「生成 AI 利用クラウドサービス (ASP・SaaS) 情報開示認定制度」の特徴

<クラウドサービス事業者にとってのメリットと意義>

1. 生成 AI 特有のリスクへの対応力を客観的に証明し、他社と差別化
生成 AI 特有のセキュリティやガバナンスに適切に対応していることを第三者機関が認定し、他社サービスとの明確な差別化を図れます。

2. 国内外の最新 AI ルール・ガイドラインへの準拠を強力にアピール
「AI 事業者ガイドライン」や「G7 広島プロセス国際行動規範」など最新の国際ルール等を網羅した、ASPIC の情報開示指針を満たすことで、高度なコンプライアンス体制を社外に示せます。

3. ブラックボックス化の不安を払拭し、ビジネス拡大・選定率を向上

利用基盤モデルや AI の出力に関する責任分担などの「透明性」を適切に開示し、利用者の不安を解消します。また、SaaS 利用者の約 44% が「情報開示認定」を参考にしているため、取得が直接的な選定率向上やビジネス拡大につながります。

4. 新制度でも安心の「手厚いサポート」と「圧倒的な低コスト」

事務局による無料の個別相談など丁寧な支援を提供します。また、類似のセキュリティ認証制度に比べ非常に安価な審査料金で認定取得が可能です。

(※制度開始を記念し、2027 年 3 月末まで新規申請手数料無料)



認定マーク



認定証